

ヤマとマチをつなぐメディアづくり ～農山村における地域資源の発掘・活用と関係人口の創出～



マップづくりの録音風景

地域資源
関係人口
音風景

DATA

● 主な連携先・メンバー

NPO 法人愛のまちエコ倶楽部／音雨音木工所／箕川未来協議会

● 活動地域

滋賀県東近江市愛東地区・奥永源寺地区（ヤマ・サト側）／京阪神圏（マチ側）

● 活動期間

2022 年 6 月～継続中

● 活動資金

地域連携活動に対する補助事業

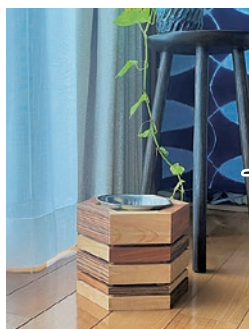
目的

農山村地域の課題解決をみすえ、「ヤマとマチとをつなぐメディアづくり」というコンセプトを軸に、地域の主体と連携しながら交流・関係人口創出のための調査・実践を行う。

活動内容

開発した商品（木製フードスタンド、木製サイリウムランタン）のモニター調査も交えつつ、京阪神圏のエシカル系を中心とした雑貨・木製品販売店へのヒヤリングを実施し、商品の販売可能性についての知見を得た。また、関連するテーマの展示会に出店し、商品ブラッシュアップへのヒント等を得た。

そして、連携している木工所のギャラリースペースの整備作業を支援し、地域の交流・関係の場づくりを促進するイベント企画案を作成するとともに、木工所とのさらなる商品の試作も行った。加え



試作品

連携にいたる経緯

東近江市愛東地区にて愛のまちエコ倶楽部の協力のもと「つながりが生業をつくる」をキーワードとした研修を 2022 年 6 月に実施したことを契機に、地域の木工所との連携による学生主体の商品開発を開始した。これを足がかりに本事業の構想へと展開した。

て、企画実現へむけてのネットワークづくりを目的として、現地で活動する NPO や就農者への企画案の提示や援農を通じた関係構築等を行った。

さらに、山間部の集落において音風景調査を実施。具体的には夏から秋、冬へむけての季節の変化を軸として、住民への地域の音風景の記憶を掘り下げるヒヤリングと実際の音環境の観察・録音を行った。同時に、連携組織の拠点整備の支援も交えつつ、地域との関係を育みながらマップのためのデータ蓄積を進めた。



展示会の様子①



展示会の様子②

活動の成果

- ≫ 地域資源を活用した商品の販路開拓を実施し、販売へ向けた道筋をつくった。
- ≫ 交流・関係の場づくりへ向けて、地域アクターとのネットワーク構築を進めた。
- ≫ 音風景のガイドマップの作成へ向けた地域での聞き取り調査、観察、録音を実施した。

連携先からの一言

学生のみなさんに度々足を運んでもらい、実際に体を動かしながら、外の視点や若い視点で地域へのアイデアもいただいています。その学びと実践は、同時に地域側の活力や新たな取組みのヒントにも繋がっています。

(NPO 法人愛のまちエコ倶楽部)

今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 都市部のエシカル消費に関わる団体や事業者との連携。
- ≫ 交流・関係の場の創出に向けた地域内ネットワークのさらなる発展。
- ≫ 音風景ガイドマップの完成とそれを活用した地域交流の促進。

社会学部 教授 大門 信也 Daimon Shinya



専門は環境社会学。地域の記憶の掘り起こしや、ヒト・モノ・カネの循環等の切り口から、中山間地域と都市部をつなぐメディアをつくる実践に、学生たちと取り組んでいる。

